

社会 中学校 第1学年

個々の問題の出題の意図及びその正答率

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点			正答率
	大問	小問	通番		思考・判断	資料活用・表現	知識・理解	
地理的分野	1	1	1	世界の地域構成をとらえる視点として、世界の州区分を正しく理解し、日本がアジア州の中でも、東アジアに属することを理解している。			○	72.0
		2	2	地球上の位置関係を表すために使われる緯度や経度について、地図上だけでなく、地球の断面図上や地球儀などを活用してとらえることができる。		○		65.9
		3	3	15度で1時間の時差ができる基本的な仕組みを活用し、明石とオスロの時差を計算し求めることができる。	○	○		75.0
		4	4	日本と近隣諸国の位置関係について、地図をもとに正しく読みとることができる。		○		71.6
	2	1	5	岐阜県の工業について、グラフをもとに全国や隣接県との比較を行い、その特色を考えることができる。	○	○		59.6
		2	6	工場の立地条件について、材料や製品の運搬のしやすさや運搬にかかる費用など、早さや安さなどの効率のよさと関係付けて考えることができる。	○			62.3
	3	1	7	地形図から得られる基本的な情報や縮尺や水準点などの言葉の意味を正しく理解している。			○	77.9
		2	8	八方位を用いて、ある地点から見た別の地点の方位を正しく理解している。			○	59.7
		3	9	2万5線分の1の地形図上での等高線のきまりを用いて、ある地点の高さを等高線を用いて求めることができる。		○		42.8
		4	10	縮尺の意味を理解し、地形図上のある地点からある地点までの直線距離から実際の距離を地形図のスケールや定規などを用いて求めることができる。		○		81.6
		5	11	地図記号をもとに地形図に表されている土地利用の様子を読みとり、条件にあてはまる場所を考えることができる。	○			59.1
	4	1	12	与えられた情報を手がかりとして、実際に略地図に書き表すことができる。		○		40.8
歴史的分野	5	1	13	年表を読みとる基本事項として、「世紀」について理解している。			○	45.1
		2	14	古墳時代の様子と、その時代の特色を示す道具や出土品などについて正しく理解している。	○		○	37.2
		3	15	案内図に示された各時代の特色を示す言葉から、それぞれの時代の様子を考え、どれが古墳時代であるかを判断することができる。	○			78.1
		4	16	時代の特色を示すことがらや代表的な資料（聖徳太子の十七条憲法）について、その内容を考えることができる。	○	○		79.9
		5	17	時代の特色を示す代表的な資料（元寇における戦いの様子）から、鎌倉時代の特色である将軍と御家人の結び付きを考えることができる。	○			58.2
		6	18	年表をもとに古代がどの時代を示すかをつかみ、平城京や平安京が古代の政治の中心地であったことを考えることができる。	○	○		32.9
		7	19	日本の政治の中心地として、鎌倉時代に幕府が開かれた場所について、日本地図上でその位置を正しく理解している。			○	62.5
	6	1	20	各時代の様子を示す文化財を武家や貴族などのそれぞれの文化の特色と結び付けてとらえ、資料を分類することができる。		○	○	35.3
		2	21	貴族の間におきた浄土信仰の代表的な阿彌陀堂として平等院鳳凰堂があることを理解している。			○	67.1
		3	22	それぞれの時代の特色とかかわらせて文化財を理解するとともに、飛鳥時代から安土・桃山時代までの文化財を時代順に正しく理解している。			○	60.9
	7	1	23	豊臣秀吉の政策にかかわる課題を解決するために、必要な資料からその内容を読みとり、それが当時の社会に与えた影響について適切に説明することができる。	○	○		32.5